



TITLE:

会員動静

AUTHOR(S):

CITATION:

会員動静. 日本外科宝函 1953, 22(6): 702-702

ISSUE DATE:

1953-11-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/206035>

RIGHT:

会 員 動 静

新 住 所

佐 藤 博 正	京大外科第四研究室
佐 藤 新 太 郎	三重県南牟婁郡阿田和町南牟婁 民生病院外科
三 好 清 纓	香川県高松市塩上町八九七 三好外科病院内
佐 藤 堯	大阪市北区扇町 北野病院内
大 草 重 夫	高山市天満町 高山日赤外科
大 戸 源 由	岐阜県多治見市 多治見市民病院
林 谷 端 庭	新潟県高田市 県立中央病院
恒 川 謙 吾	外科教室内
藪 野 重 一	舞鶴市東舞鶴局区内溝尻一五〇 鶴舞市民病院
南 部 正 敏	舞鶴市東舞鶴局区内溝尻一五〇 〃
回 陽 博 行	福井県今立郡岡本村新在家 竹下診療所内
亀 苔 武 三	鳥取市瓦町一二四
滝 幸 久	大阪市東区法円坂町 大阪赤十字病院外科
越 智 幸 雄	京都大学外科学教室内
片 岡 典 正	滋賀県犬上郡豊郷村 財団法人豊郷病院外科
代 田 伍 朗	京都大学外科学教室内
大 塚 哲 也	島根県八東郡玉湯村玉造 厚生年金玉造整形外科病院

編 輯 後 記

○第22巻最終号をお届けする。復刊後満1年、予期以上に順調な発展を遂げて、最初各号50頁の予定だったものが、遂に150頁程度にしなければ論文を収容しきれなくなつた。一方、国内はもとより、欧米の権威ある雑誌或は研究所からの交換乃至購読希望が増加して、本誌掲載論文が直ちに国際論文となり得る機運が濃くなつて来たのは喜ばしい。

○論文の国際性と云うことに関連して、「英語で論文を書いてみたとして、外人には却つてわかりもしないし読もうともしない。読みたいと思う論文は、アルバイト留学生などにどんどん翻訳させて読むから、無理して英語で書くなどとは愚かなことである」と云う意味のことを云つた人がある、此れも一応尤もであるとは思ふが、それなら外人に判る英語を書けばよい訳である。それに邦文のみの雑誌であれば、果して外人の関心を惹き得るであろうか。本誌としては矢張り可成りの欧文原著を掲載し続けて行きたいと思う。唯、極く稀には上記論者に引用されそうな欧文を頂戴することもあつたので、此の点、充分に練つたものを寄せていたゞきたい。

○未だに毎号誤植の絶えないのには全く恐縮して居る。由来、誤植と云うものは、校正の時にはともすれば見逃され易いのに、いざ本印刷となると、頁を

開いた瞬間に眼の中に飛び込んで来ると云う奇妙な性質を持つて居る(らしい)のには閉口する。本号も可成り努力した積りではあるが自信がない。心配なことである。

○おしたくにて何々医学会雑誌と月並みな誌名が多い中に、誰方の御命名か——荒木教授に伺うと鳥瀧名誉教授とのこと——日本外科宝函とは誠にすつきりしたものだと思う。宝函は勿論 treasure box であろう。唯、手近の辞書には宝篋或は玉函と云う語はあるが、宝函は見当らない。併し詩にはよく使われるとみえて、御製佩文韻府には宝函映玉軸とか宝函封檢秘天文とか多数の用例が出て居る。他方、Archivは公文書を保存する部屋又は建物乃至はそれらの書類そのものであつて、直接に宝函と云う意味は無いようである。往昔ローマのカピトル神殿の地下室には神託書を入れた石函があつたそうで、此れをしも archivum と呼んだのなら Archiv と宝函との間に直接連絡が出来そうであるが、そんなことは Encyclopedia Britanica にも書いてない。何はともあれ、その誌名や宜し外科宝函、容るゝに珠玉の名篇を以てし、名実ともに日本外科学の宝庫たらしめたいものである。

○増頁に伴ない止むを得ず別項の如く購読料値上が決定された。御諒承の上、引き続き御愛読を賜りたい。

(星野 列記)